

UAD プラグイン・マニュアル

バージョン 8.1



UNIVERSAL AUDIO

Universal Audio, Inc.
4585 Scotts Valley Drive
Scotts Valley, CA 95066-4517
www.uaudio.com

Customer Support
USA (toll-free): 1-877-698-2834
International: +1-831-440-1176

Neve 88RS Channel Strip コレクション

Neve のプレミア・アナログコンソールのエミュレーションに Unison™ マイク・プリアンプを搭載

Neve 88 シリーズは、ラージフォーマットのアナログ・コンソールの絶品です。2001 年に導入された 88 シリーズは、その前に発売されていた Neve デザインの長所をすべて含み、その驚くべきサウンドの深み、軽やかさ、明快さでよく知られています。驚くことではありませんが、Neve 88 シリーズは、Skywalker Ranch、Capitol、Abbey Road、United/Ocean Way recording など、世界有数のレコーディング・スタジオやスコアリングステージの一部として使用されています。

今回初めて、マイク/ライン・プリアンプ、カットフィルター、ダイナミクス、4 バンド EQ、ポストフェーダーのアウトプットアンプなど、この近代的な傑作のエミュレーションを介して、UAD-2 ハードウェアと Apollo で使用することができます。

新機能:

- Neve のプレミアム・ラージフォーマットのアナログ・コンソールのサウンドでミックスをスカルプティング
- Neve の有名な 88RS トランス・ベースのマイク・プリアンプの透明性とオープンなキャラクターを得る
- Neve 88RS フォルマント・スペクトラム EQ とダイナミクス・セクションを使用してシグナルをシェイプ
- Unison™ テクノロジーを使用して Apollo のマイク・プリアンプのゲインステージやインピーダンスを特設コントロール
- Jimmy Douglass、Andrew Dawson、Joey Waronker、Ryan West によるアーティスト・プリセットを使用してミックス
- お使いの DAW で現代的な Neve のアナログ・コンソールサウンドを作成

唯一 Neve 88RS チャンネルストリップの回路を隅から隅までエミュレーション

Apollo と UAD-2 で使用する Universal Audio 新しい Neve 88RS Channel Strip は、正確に Neve のラージフォーマット・ミキサーの独特のサーキットの挙動をエミュレートしています。マイク/ライン・プリアンプのモデリング、カット・フィルター、ダイナミクス、4 バンド EQ に加え、ポストフェーダー・アウトプットアンプの詳細な部分までをモデリングした Neve 88RS Channel Strip プラグインは、Neve の究極のミキシング・コンソールの豪華なサウンドを高忠実度のサウンドを提供します。

Apollo の Unison テクノロジー

UA の画期的な Unison テクノロジーを活用した Neve 88RS Channel Strip コレクションは、88RS マイク/ライン・プリアンプのインピーダンス、ゲインステージの“スイートスポット”、アナログ・プリアンプ設計など、サーキットの挙動のすべてを再現しています。秘密は、Neve 88RS プラグインからの Apollo のフィジカルなマイクプリアンプへの Unison による 双方向性コントロールと通信です。

Neve のフォルマントスペクトラム EQ による調整

88RS トラッキングやミックスダウン時に任意のシグナルを形成するために広いレンジ、を最小の位相の乱れを実現した 12dB のハイ/ロー・カットフィルターが装備されています。加えて、意欲的な色調ストロークや正確なスカルプティングが行える Neve の有名なフォルマント・スペクトラム 4 バンド EQ は、どのようなソースにでも Neve のカラーを提供します。

Neve 88RS ダイナミクスでエクスパンド&クラッシュ

汎用性が高く、音楽的な VCA タイプのリミッター/コンプレッサーとゲート/エキスパンダー・モジュールは、88RS のダイナミクス・セクションは、正確にどんなソースでも調整することができます。;リードボーカルを透明でスムーズにし、パーカッション・バスをエキサイトにしたたり、周波数依存のゲインリダクションによるデイエッシングを提供することもできます。

開放性と深みを UAD-2 ハードウェアに伝える

もちろん Neve 88RS Channel Strip コレクションは、Apollo ユーザーだけのためのものではありません。UAD-2 のオーナーは、外部接続することなくアンプリフィケーション、EQ によるトーンシェイピング、ダイナミクス・コントロール、任意のソースに Neve の艶を加える事ができます。

Neve 88RS Channel Strip の完璧なコンソール・エミュレーションに加え、DSP 消費率の低い Neve 88RS Channel Strip Legacy によって、88RS の有名な素晴らしいアナログの明快なサウンドを与えます。

Neve 88RS スクリーンショット

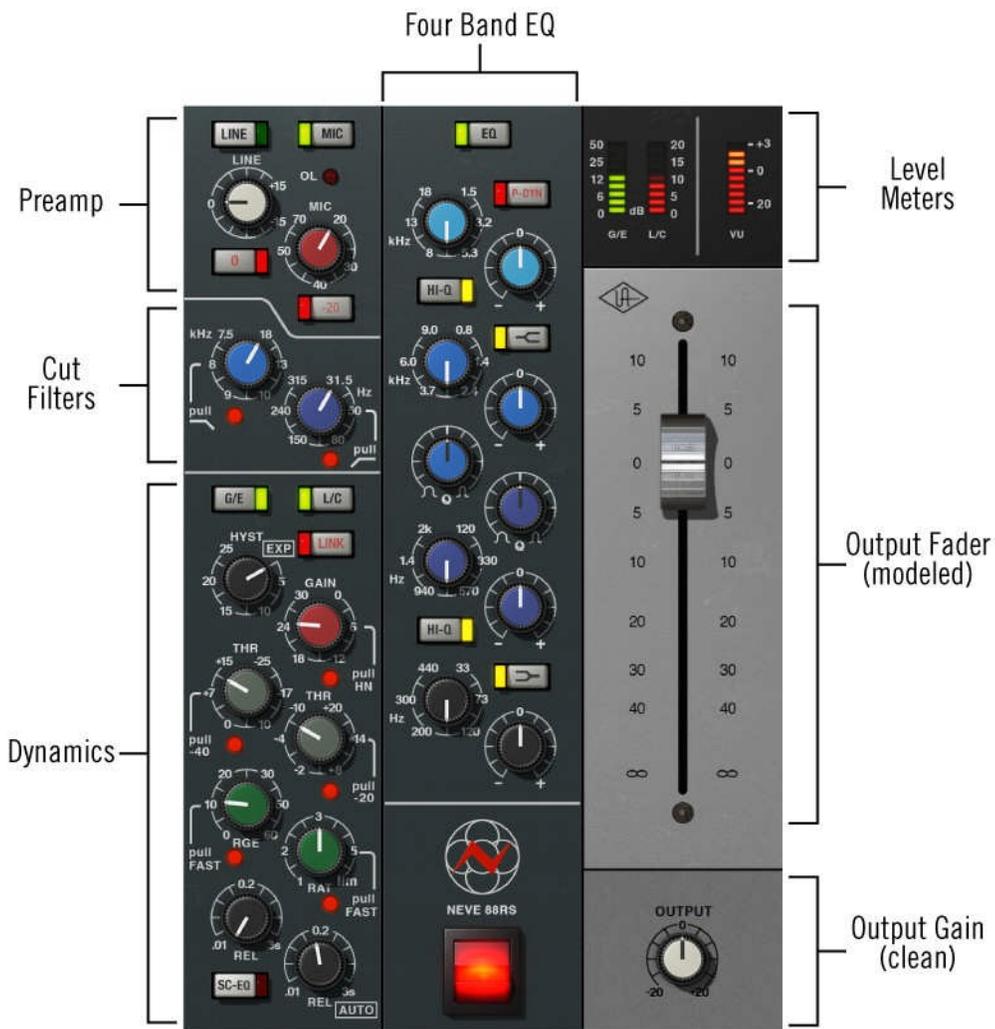


図 91. Neve 88RS プラグイン・ウィンドウ

Neve 88RS プラグイン

Neve 88RS Channel Strip コレクションは、UAD Neve 88RS と UAD Neve 88RS Legacy プラグインの 2 種類で構成されています。プラグインは、オリジナルの P&G アウトプット・アッテネート・フェーダー等のオリジナル Neve 88 RS ラージフォーマット・コンソールの“ゴールデンユニット”チャンネルストリップを基にしています。

Neve 88RS

UAD Neve 88RS Channel Strip は、唯一 88RS channel strip を隅から隅まで再現した本物のサーキットをモデリングしているプラグインです。Unison を使用すると、88RS の入力・トランス、そしてリアルなフィジカル・インピーダンススイッチまでも非常に詳細なモデリングしています。

4 バンド・アクティブ EQ のフィルター・インタラクションと内部アンプのクリッピング動作やカットフィルターも同時にモデリングされています。プラグインはまた、88RS のポストフェーダー・アウトプットアンプの非線形性、アウトプットトランス、等の多くをキャプチャーしています。

Neve 88RS は、ソニックデザインの目標を達成するために内部のアップサンプリング技術を使用しています。これは、アップサンプリングを行わない他の UAD プラグインよりもわずかに大きいレイテンシーを伴います(55 と 88 サンプル: サンプルレートによってことなります)。これらの追加のサンプルが近代的なホストの DAW によって自動的に補正されます。詳細については、[アップサンプリングされたプラグイン](#)を参照してください。

注: *Neve 88RS Legacy* はアップサンプリングを使用していません。

Neve 88RS Legacy

物理的なアンプやサーキットの非線形性を必要としない場合には、UAD Neve 88RS Legacy channel strip は、88RS の正確なスポットオン・リニアのエミュレーションを提供します。

Neve 88RS Legacy は、EQ や、ダイナミクスの非線形性や入力/アウトプット・ステージのモデリングを含まないので新しい Neve 88RS よりも少ない UAD DSP 消費率を節約することができます。



Neve 88RS は Universal Audio の Apollo オーディオ・インターフェイスのマイクプリアンプ・ハードウェアと統合した動作を行うために Unison テクノロジーを採用しています。

Unison を使用することで、Apollo の超クリアなマイクプリアンプのサウンドは、インプットキャラクターを始めとする Neve 88RS ハードウェア・プリアンプの機能とサウンドすべてを再現します。

注: Unison は、Neve 88RS が Apollo の Console アプリケーション内の PREAMP インサート・スロットで使用されている場合にのみ有効になります。Unison に関する詳細については、Apollo ソフトウェアマニュアルを参照してください。

リアルなタナDEM・コントロール

Unison は、Apollo のデジタル・コントロールされているパネルのハードウェア、やプラグインのインターフェイスを使用して Neve 88RS プラグインの設定をシームレスにインタラクティブ・コントロールを行うことができます。すべてのプリアンプ・コントロール(ゲイン、パッド、フェイズ)をミラーリングし、どちらからもコントロールすることが可能です。プリアンプ・コントロールは、ゲイン・レベル、クリッピング・ポイントを含む Neve 88RS ハードウェアの相互作用の動作を正確に再現します。

ハードウェアのインプット・インピーダンス

すべての Apollo マイクプリアンプは、アナログ・ハードウェアでのインプット・インピーダンス切替え機能を備えており、Unison プラグインによって、マイクとプリアンプ抵抗の間の相互作用を物理的に切り替えることができます。このインピーダンスの切替えは、物理的に Apollo のプリアンプがエミュレートされたユニットのインプット・インピーダンスと一致することを可能にします。それは、マイクのサウンドに大きな影響を与えることができます。電氣的な付加は A/D 変換前の入力で発生するため、リアルさはオリジナルのハードウェアに忠実に行われます。

タクティカル・ゲインステージ

Apollo のフロントパネルのプリアンプノブは、ゲインステージ・モードを使用して Unison プラグイン内のすべてのゲインと使用可能なレベル・パラメーターを独立してコントロールすることができます。Apollo からリモートでゲインステージを切替え、コントロールすることができ、複数のゲイン・レベルとそれに関連する音色の着色は、Unison プラグインのソフトウェア・インターフェイスを使用せずに物理的なハードウェアノブを使用してコントロールすることができます。

注: Unison テクノロジーは、Neve 88RS Legacy では使用できません。

アーティスト・プリセット Neve 1073 は、著名な Neve 1073 ユーザーからのアーティストプリセットを収録しています。アーティストプリセットは内部のファクトリープリセットにあり、ホストアプリケーションのプリセット・メニューからアクセスすることができます。それらは、Apollo の Console アプリケーションでも使用できるよう、UAD インストーラーと一緒にインストールされます。プリセットは、UAD ツールバーの“Settings”メニューを使用してロードすることができます。(詳細は UAD システムマニュアルの第 7 章“UAD パワードプラグインの使用方法”を参照してください)

概要

現代的なサウンド調整の豊富なツールとして Neve 88RS Channel Strip は、Neve のフラッグシップ・コンソールのエッセンスを再現しています。コンソール・コントロールは、マイク/ライン・プリアンプ、12dB /オクターブのハイ/ロー・カットフィルター、4 バンド EQ とリミッター、コンプレッション、ゲート、エクspansionからなるダイナミクス・プロセッサーで構成されています。

フレキシブルなハイとロー・バンドは、2 つの固定 Q タイプとシェルビング EQ に切り替える機能を持っており、ミドル EQ は、フルパラメトリックです。

リミッター/コンプレッサー-VCA は、0.01s ~ 3s までのリリースと、オートリリース、そして固定のファースト/スロー・アタックタイムと連続可変コントロールを提供します。ゲート/エクスパンダーは、0.01s ~ 3s までのリリースとファースト/スロー・アタックタイム加え、任意のソース・シグナルのために完全なレスポンスを行なうゲート、またはエクspansion・プロセッサーを調整するためにヒステリシスをコントロールします。

サイドチェイン EQ (SC-EQ) 機能により、周波数に依存したダイナミクス・プロセッシングはディエッサーなどの作業に使用することができます。

モジュール

Neve 88RS と Neve 88RS Legacy のコントロールは、モジュール内でグルーピングされています。どちらのプラグインもダイナミクス、EQ、カットフィルター・モジュールが含まれています。Neve 88RS は、Neve 88RS Legacy で使用できないプリアンプ・モジュールを含んでいます。

シグナルフロー

図.92 で表示しているようにカットフィルターのアウトプットは、Pre-Dyn スイッチの状況に応じて、ダイナミクス・モジュール、または EQ モジュールのインプットに送られます。デフォルトでは、ダイナミクスは EQ の前にあります。ダイナミクスの前に EQ をルーティングしたい場合、“Pre-Dyn”を有効にしてください。

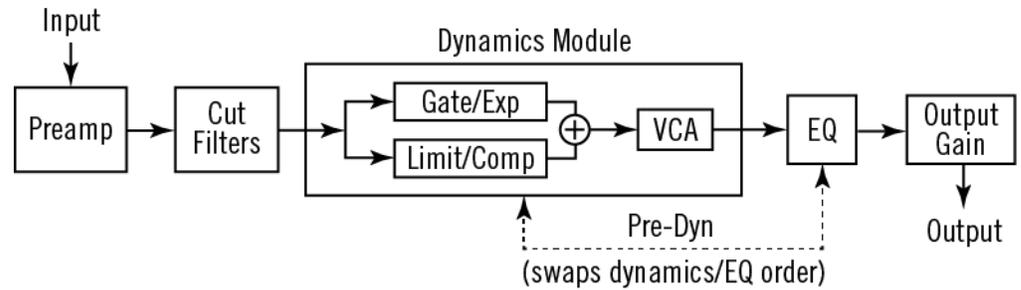


図 92. UAD Neve 88RS 内のシンプルなシグナルフロー

Neve 88RS のコントロール

Neve 88RS と Neve 88RS Legacy プラグイン・モジュールのコントロールは、本質的には同じです。任意のコントロールの違いは個別に記載されています。

プリアンプ・モジュール

Neve 88RS は、オリジナルのコンソールのプリアンプ・モジュールの完全なモデリングが含まれています。このセクションのコントロールの説明については、図 93 を参照してください。

注: Neve 88RS Legacy はプリアンプ・モジュールを含みません。

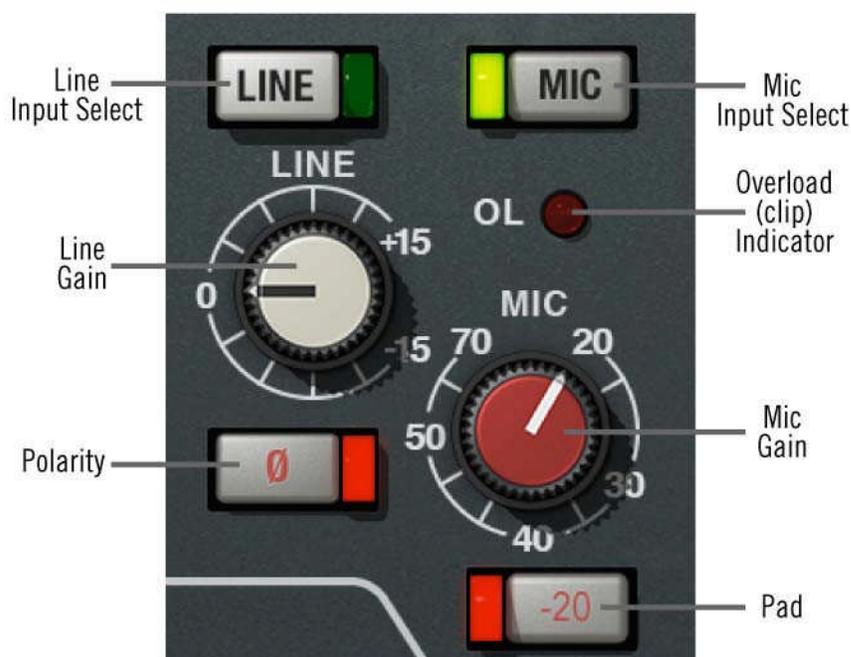


図 93. Neve 88RS プリアンプ

インプット・セレクト

インプットセレクト・スイッチは、どのインプットゲイン・ノブ (LINE / MIC) を使用するか決定します。インジケータは、選択しているインプットの LED が点灯します。

ハードウェアと同じように簡単にシグナルに歪みをクリエイティブな使用用途として加えられるように“バーチャル”マイク・インプットを介してラインレベル・シグナルを送ることができます。これはマイクレベルのインプットにラインレベルのシグナルをルーティングすることと同じで、大きなゲインを得ることができます。

注: ラインからマイクへ切り替えるとアウトプット・レベルが大幅に増幅されるので、ご注意ください。(ハードウェアのプリアンプと同様に)

 Neve 88RS は、Apollo の Console アプリケーション内で Unison インサートとして使用する場合、ソフトウェアとハードウェアのインプット・セレクトはミラーリングされます。選択したインプットは、プラグインターフェイス内、Console の MIC/LINE ボタン、または Apollo のハードウェア・ボタンで変更することができます。(Apollo では、MIC/LINE、Apollo Twin では INPUT)

注: Hi-Z インプットに Unison を使用して接続された場合、マイク・インプットが自動的に選択されます。

ラインゲイン ラインゲインは、-15 dB ~ +15 dB までのレンジを有しています。ゲインを増加させるにはノブを時計回りに回してください。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると 0 dB にコントロールを戻すことができます。

マイクゲイン マイクゲインは、+20 dB ~ +70 dB までのレンジを有しています。ゲインを増加させるにはノブを時計回りに回してください。

ヒント: テキストラベル“MIC”をクリックすると 40 dB にコントロールを戻すことができます。

Unison インピーダンス

 Neve 88RS を Apollo の Console アプリケーション内の Unison インサートで使用する場合、Apollo のマイクプリアンプのハードウェアインプット・インピーダンスは、プラグイン内で設定されている値と一致するように切り替えられます。

もっとも近いインピーダンス値をマイクに合わせるのが一般的ですが、このパラメーターをクリエイティブな用途で使用することができ、その場合に Apollo のマイクプリアンプに接続した機材に悪影響を与えることはありません。

オーバーロード シグナルのクリッピングがモデリングしているプリアンプのインプット・ステージで発生しているときは、オーバーロード LED が点灯しています。クリップを検出した後は、約 1 秒間インジケータが点灯したままになります。

 **注:** プラグインが Apollo の Console アプリケーション内の Unison インサートで使用する場合のオーバーロードは、A/D コンバーターのクリッピングを示すものではありません。

Ø (フェイズ) シグナルの極性(フェイズ)を反転させます。スイッチの赤いインジケータ LED が点灯しているとき、フェイズは反転します。通常はスイッチを無効にしておきます。



Apollo の Console アプリケーション内の PREAMP インサートで使用される場合、ソフトウェアとハードウェアのフェイズのコントロールはミラーリングされます。フェイズは、プラグインのインターフェイス内、または Apollo のハードウェア上のフェイズ・ボタンで切り替えることができます。

コントロール・セクション

Neve 88RS でフェイズスイッチは、プリアンプ・モジュール内のラインゲイン・ノブの下にあります。Neve 88RS Legacy ではグローバルコントロール・セクション内にあります。

-20(パッド)

このスイッチを有効にすると、マイク入力・レベルを、-20 dB 減衰させます。-20dB スイッチの LED インジケーターが点灯している時は、パッドが有効になっています。

プリアンプ・ゲインが低い時に望ましくないオーバーロード・ディストーションが起こる場合に、シグナル・レベルを下げるために使用することができます。

注: PAD は、ライン・入力、または *Unison* モードで Apollo の *Hi-Z* 入力を使用した場合は利用できません。このケースでは切り替えることができません。



Neve 88RS が Apollo の Console アプリケーション内の *Unison* インサートで使用される場合、ソフトウェアとハードウェアの入力・セレクトのコントロールはミラーリングされます。PAD は、プラグインのインターフェイス内、または Apollo のハードウェア上の PAD ボタンで切り替えることができます。

カットフィルター・モジュール

Neve 88RS はハイ/ローの 2 種類のカットフィルターを搭載しています。カットフィルターのスロープは、オクターブ当たり 12 dB のスロープです。カットフィルターには、“Enable”と“Frequency”の 2 つのコントロールがあります。

Unison を使用したローカット



Apollo 上のハードウェア・ボタンでフィルターの状態を切り替えると、最後に設定した周波数値でオンになります。

コントロールの位置

Neve 88RS カットフィルターは、プラグインの左側の列のプリアンプとダイナミクス・モジュールの間に位置しています。Neve 88RS Legacy では、フィルターはグローバルコントロール・セクション上に配置されています。

このセクションのコントロールの説明については、[図 94](#) を参照してください。



図 94. Neve 88RS カットフィルター

カット・イネーブル

このイネーブル・スイッチがオンになっているとそれぞれのカットフィルターが有効になります。以下で説明するようにこれらのスイッチの外観はプラグインによって異なります。

注: カットフィルターが無効になっているとき、UAD DSP の負荷は軽減されません。

Neve 88RS

カットフィルターを有効にするには、カットフィルター・コントロールの下にあるラベル“pull”、または赤い LED インジケータををクリックしてください。赤いインジケータが点灯している時は、カットフィルターは、有効です。

Neve 88RS Legacy

カットフィルターを有効にするには、カットオフ・フリーケンシーの下にあるイネーブル・スイッチをクリックしてください。赤いインジケータが点灯している時は、カットフィルターは、有効です。

カット・フリーケンシー

フリーケンシー・ノブは、カットフィルターのカットオフ・フリーケンシーを決定します。

ハイカット

ハイカット・フィルターで使用可能なレンジは、7.5 kHz ~ 18 kHz までです。(水色のコントロール)

ローカット

ローカット・フィルターで使用可能なレンジは、31.5 Hz ~ 315 Hz までです。(青色のコントロール)

ダイナミクス・モジュール

ダイナミクス・セクションは、ゲート/エキスパンダーとリミッター/コンプレッサーで構成されています。左側の列は、ゲート/エキスパンダー・コントロール、右側の列は、リミッター/コンプレッサー・コントロールと垂直にそれぞれのダイナミクス・プロセッサが配置されています。それぞれのプロセッサは、独立してオン/オフすることができます。

このセクションのコントロールの説明については、[図 95](#) を参照してください。

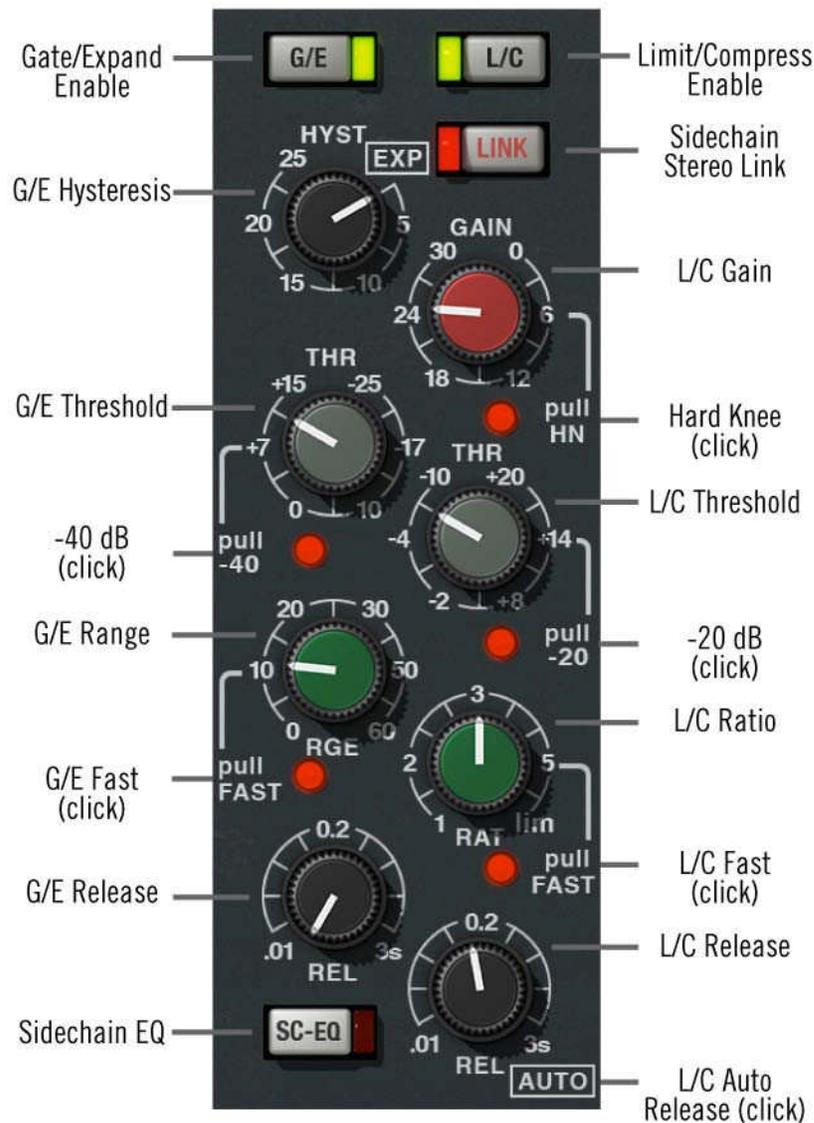


図 95. Neve 88RS ダイナミクス・プロセッサ

ゲートの設定はコンプレッサーの動作に影響を与えません。その逆も同様です。同じサイドチェイン・シグナル(SC-EQ スイッチによって EQ 前後に切り替え可能)が、ゲートとコンプレッサーの両方にルーティングされます。ゲートとコンプレッサーの両方のゲインは、同一のシグナルに基づいて算出され、その後、ゲートとコンプレッサーの両方のゲインを 1 つのゲインリダクション VCA によって同じ場所で適用します。(図 92 参照)

ダイナミクス・プロセッサの動作状況は、メーターに表示されます。

サイドチェイン・リンク Neve 88RS は、リンクが有効になっている(リンクスイッチ LED が点灯している)場合、ステレオイン/ステレオアウトで動作します。その場合、2 つのチャンネルに等量でコンプレッションを適用します。

サイドチェインをリンクするとは、2 つのチャンネルをのコンプレッションの瞬間的な量が常に同じであることを意味します。そして左右のステレオ・イメージがずれることを防ぎます。

注: このコントロールは、Neve 88RS Legacy では使用できません。ステレオ、またはモノステレオで使用した際、Neve 88RS Legacy サイドチェインは、常にリンクされます。

サイドチェイン EQ (SC-EQ)

このコントロールは、Neve 88RS のサイドチェインを有効にします。サイドチェインがアクティブな場合、EQ モジュールからアウトプットしたシグナルは、オーディオパスから取り除かれ、代わりにダイナミクス・モジュールをコントロールするためにルーティングされます。ボタンの赤い LED が点灯しているとサイドチェイン EQ が有効になります。

注: サイドチェインが機能するためには、EQ モジュールと少なくとも 1 つのダイナミクス・モジュールが SC-EQ と組み合わせてアクティブになっている必要があります。(328 ページの“EQ イネーブル(EQ)”を参照してください)両方の機能が有効になっている場合、SC-EQ は、P-DYN を上書きします。

サイドチェインは、通常はディエッサーのように周波数を意識した技術のために使用します。サイドチェイン・キーを確認するには EQ されたシグナルのために SC-EQ を解除してください。

注: ステレオイン/ステレオアウトで使用するとサイドチェイン・ダイナミクス/EQ は真性ステレオです。

コントロールの配置

Neve 88RS でのサイドチェイン EQ スイッチは、プラグイン・ウィンドウの左下のダイナミクス・モジュール内に配置されています。Neve 88RS Legacy でのスイッチは、グローバルコントロール・セクション内に配置されています。

ゲート/エキスパンダー

ゲート/エキスパンダー・モジュールは、ゲート、またはエキスパンション・モードのいずれかで動作します。ゲート・モードでは、スレッショルド以下のシグナルがレンジ(RGE)で設定した量(図 97)を減衰し、ヒステリシス(図 96)を使用可能です。

エキスパンション・モードは、ヒステリシス(HYST)コントロールを完全に反時計回りに回す(またはテキストラベル“EXP”をクリックする)と有効になります。レンジ・コントロールによって決定されたゲインリダクション量で、ゲートは固定の比率 1:2 でエキスパンションを下向きに適用します。2つのアタック・スピードと連続可変のリリースタイムは、両方のモードで使用可能です。

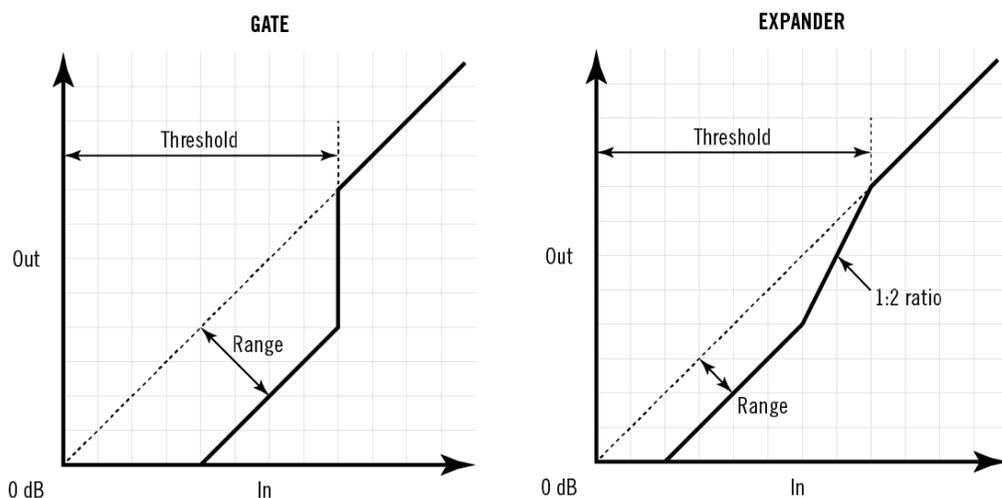


図 96. Gate/Expander ダイアグラム

Gate/Exp イネーブル (G/E)

このボタンによってゲート/エキスパンダー・モジュールを有効にします。緑色のインジケータ LED が点灯しているとモジュールはオンになっています。

このボタンは、オリジナルのシグナルとゲート/エキスパンダーの設定を比較するため、またはモジュールをバイパスするために使用することができます。このモジュールは、無効時には UAD DSP の負荷が軽減されます。(UAD-2 DSP ロードロック時以外)

Gate/Exp ヒステリシス (HYST)

ヒステリシス・ノブは、シグナルのレベルが上行、または下行時にスレッショルドを適用するか違いを設定します。レベルがヒステリシス値を加えたスレッショルドに達するとそれ以上大きいシグナルは通過し、小さくなるシグナルはロウワースレッショルド以下になり通過しません。最高で 25 dB のヒステリシスを使用可能です。詳細は図 97 を参照してください。

ヒステリシスは、スレッショルド値をゲートのオン/オフの状態に依存させることによって、ゲートの感度を緩くして断絶を緩和します。上昇するシグナルレベル用のスレッショルドを上げると加工するレベルをカットし、下のスレッショルド値を維持しながらゲートをオンにする際のノイズを防止することができます。これによってリバーブテールに早めにゲートが適用されることを防ぐことができます。例えば、スレッショルドを-50 に設定し、ヒステリシスを 10 に設定しておく、シグナルが通過するにはレベルが-40 dB 以上に上昇する必要があり、レベルが-50 dB 以下に落ちるまでゲートは開いた状態になります。

このコントロールは、エキスパンダー・モードも有効にします。ヒステリシス・ノブを完全に反時計回りに回すとゲートがオフになり 1:2 の下方向のエキスパンダーがオンになります。

注: エクスパンダー・モードは、ノブの近くのテキストラベル EXP をクリックすることでオンにすることもできます。再度 EXP をクリックするとノブは直前の数値に戻ります。

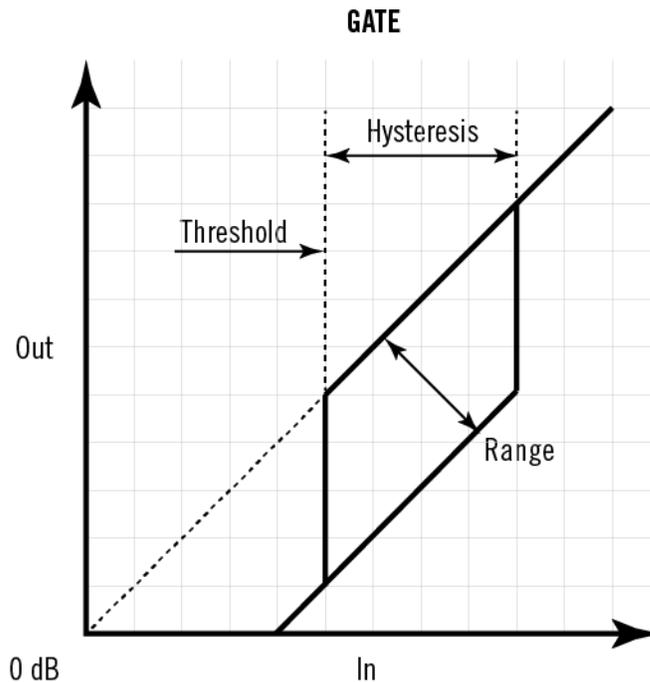


図 97. Neve 88RS ゲート のヒステリシス

Gate/Exp
スレッショルド(THR)

スレッショルドは、ゲートやエキスパンションを適用するインプット・レベルを設定します。ここで設定したレベル以下のすべてのシグナルがプロセッシングされます。スレッショルド以上のレベルのシグナルは影響を受けません。

使用可能な範囲は、-25 dB ~ +15 dB までです。-40dB スイッチがオンになっていると-25 dB ~ -65 dB の範囲を選択可能になります。

一般的な用途で使用する場合、スレッシュホールド値は、(シグナルが存在しない場合はノイズを遮断し、存在する場合はシグナルを通過させるようひすのために) 目的のシグナルのノイズフロアのすぐ上に設定しておくことが最適です。

Gate/Exp
スレッシュホールド
-40dB

-40 dB スイッチは、選択可能なスレッシュホールド値の範囲を下げることでゲートとエキスパンダーの感度を上げます。-40 dB モードがオンになっている場合、スレッシュホールドの範囲は、-25 dB ~ -65 dB までです。-40 がオフの場合、-25 dB ~ +15 dB までです。

-40 dB モードを有効にするには、ラベル”pull -40”、またはスレッシュホールドの下にある赤いインジケータ LED をクリックしてください。-40 dB モードが有効になるとインジケータが点灯します。

Gate/Exp レンジ
(RGE)

レンジ(RGE)コントロールは、ゲート/エキスパンションの適用されたシグナルとされていないシグナルとのゲイン差をコントロールします。数値が高くなるほど、スレッシュホールド以下のシグナルのアッテネート量が増えます。0 に設定すると、ゲートエキスパンションは適用されません。使用可能な範囲は 0 dB ~ -60 dB までです。

Gate/Exp ファースト

ファーストモード・スイッチは、ゲート/エキスパンダーのアタックタイムを設定します。アタックタイムは、インプット・シグナルがスレッシュホールドに達し、プロセッシングが適用されるまでの時間です。500 msec (オフの場合)、50 msec(オンの場合)の 2 種類が選択することができます。

ファースト・モードを有効にするには、テキストラベル”pull FAST”、またはレンジ(RGE)コントロールの下にある赤いインジケータをクリックしてください。オンになっているとインジケータが点灯します。

Gate/Exp
リリース(REL)

リリースは、シグナルがスレッシュホールド・レベル以下に下がり、プロセッシングを始めるまでにかかる時間を設定します。使用可能な範囲は 10 msec ~ 3 sec までです。

リリースタイムが遅くなるほど、シグナルがスレッシュホールド値以下に下がった時の以降がスムーズになります。これは時にピークが頻繁に起こる素材に適しています。

注: 一般的に速いリリースタイムは、特定の種類のパーカッション、またはその他のディケイの非常に短い楽器に有効です。その他のソースに速いリリースタイムを使用すると良い結果が得られない場合があります。

Gate/Exp メーター

このメーターは、ゲート/エキスパンダー・モジュールでのゲインのアッテネーション量(下方向のエキスパンション)を表示します。

リミッター/コンプレッサー

リミッター/コンプレッサー・モジュールは、1:1(コンプレッションなし)と∞:1(リミット)の間で連続可変のレシオを使用することができます。スレッショルド以上のシグナルは、レシオ(RAT)の数値に応じてアッテネーションされます。2つのアタックスピードと連続可変のリリースタイムが使用でき、オートモードには3段階のリリースが装備されています(プログラム依存の3種類のタイムコンスタント・リリースモード)。メイクアップゲイン・コントロールとハード/ソフト・ニーの設定もこのモジュールに用意されています。

AMS-Neve 88RS のユーザーマニュアルから引用:“アンチポンピング、ブリーディング回路は、ダイナミックレンジの絶対的なコントロールを維持しながら、音楽的にソースを操作することができます。”

88RS コンプレッサーには、もう1つ便利な機能としてスレッショルド値を2つ設定することができます。シグナルが1つ目のスレッショルド以下になると、コンプレッサーは、リリースを始めます。しかし、シグナルがこの調節可能なスレッショルド値より約40dB低く、2つ目のスレッショルド(調整不可)以下になるとリリースは劇的に遅くなります。これは“サイレンス・ディテクター”の役割を果たします。静かなシグナルが存在すると、コンプレッサーは、ダイナミックレンジを減少させるためにリリースする必要があります。しかし、一時的に無音部分を含む場合、ほとんどのケースでシグナルが再開すると、無音部分は直前のレベルと同じレベルに戻るのが普通です。従ってその場合は、コンプレッサーはすぐにはリリースしません。

例:スネアのトラックを標準のコンプレッサーでコンプレッションしてスネアのヒットがまばらになる場合、コンプレッサーは、各ヒットの間でリリースされ、各ヒットが潰れたようなサウンドになります。88R コンプレッサーを使用すると、コンプレッサーはスネアのヒットの間でそれほど頻繁にコンプレッションが行われないので、ディストーションが減少されます。ただし、コンプレッサーはスネアのヒットの間にある程度のリリースを行います。

L/C イェーブル (L/C)

このボタンによってリミッター/コンプレッサー・モジュールを有効にします。緑色のインジケータ LED が点灯しているとモジュールはオンになっています。

このボタンは、オリジナルのシグナルとリミッター/コンプレッサーの設定を比較するため、またはモジュールをバイパスするために使用することができます。このモジュールは、無効時には UAD DSP の負荷が軽減されます。(UAD-2 DSP ロードロック時以外)

L/C ゲイン

ゲインコントロールは、リミッター/コンプレッサー・モジュールのアウトプット・レベルを調整します。選択可能な範囲は 0 dB ~ 30 dB です。

一般的には、はじめにスレッシュホールド・コントロールで目的のプロセッシング量の調節を行ってから、メイクアップゲイン・コントロールを調整してください。ゲインコントロールは、プロセッシング量に影響を与えません。

L/C ハードニー (HN)

通常は、リミッターとコンプレッサーは、ソフトニー・モードで動作します。このスイッチはリミッターとコンプレッサーをハードニーに切替えます。

ハードニー・モードをオンにするにはテキストラベル“pull HN”、またはゲインコントロールの真下にある赤いインジケータをクリックしてください。このモードが有効になるとインジケータが点灯します。

L/C スレッシュホールド

スレッシュホールドは、リミッティングやコンプレッションが始まるインプット・レベルを設定します。このレベル以上のシグナルがプロセッシングされます。それ以下のシグナルは影響されません。

使用可能な範囲は +20 dB ~ -10 dB です。-20 dB スイッチがオンになっている場合、0 dB ~ -30 dB の範囲を使用することができます。

ヒント: スレッシュホールド・コントロールが増加してプロセッシング量が増えるとアウトプット・レベルは通常減少します。補正が必要であれば、ゲインコントロールを調節してモジュールのアウトプットを補正してください。

L/C スレッシュホールド -20dB

-20 dB スイッチは、使用可能なスレッシュホールド値の範囲を下げることによってリミッター/コンプレッサーの感度を上げます。このスイッチがオンの場合、スレッシュホールドの範囲は 0 dB ~ -30 dB です。オフの場合は、+20 dB ~ -10 dB です。

-20 dB モードをオンにするには、テキストラベル“pull -20”、またはスレッシュホールド・コントロール真下の赤いインジケータをクリックしてください。-20 dB モードがオンになると赤いインジケータが点灯します。

L/C レシオ (RAT)

レシオ・コントロールは、モジュールがプロセッシングするゲインリダクションの量を設定します。例えば、数値を (2:1 のレシオを表示) に設定するとシグナルを半分に減らします。20 dB のシグナルは、10 dB に減少します。

数値を 1 に設定すると、ゲインリダクションは適用されません。コントロールが最大 (“im”) の位置にあるとレシオは事実上、無限:1 となり、リミッティング効果を作成します。選択可能な数値は 1~無限です。

L/C ファースト

ファーストモード・スイッチは、リミッターとコンプレッサーのアタックタイム (スレッシュホールドに達したインプット・シグナルと、プロセッシングが開始されるまでの時間) を設定します。

アタックタイムは、プログラムに依存します。: 3 msec ~ 7 msec (ファーストモード・オフ)と、1 msec ~ 7 msec (ファーストモード・オン)の 2 つの範囲を選択することができます。

ファーストモードをオンにするには、テキストラベル“pull FAST”、またはスレッシュホールド・コントロール真下の赤いインジケーターをクリックしてください。ファーストモードがオンになると赤いインジケーターが点灯します。

L/Cリリース

リリースコントロールは、インプット・シグナルがスレッシュホールド以下に下がり、プロセスが終了するまでの時間を設定します。選択可能な範囲は、10 msec ~ 3 sec、そしてオートです。

オートモードは(プログラムに依存した 3 種類のタイムコンスタンスリリース・モード)は、リリースコントロールを完全に右回りに回す、またはテキストラベル“AUTO”をクリックするとオンになります。

リリースタイムが遅くなるほど、シグナルがスレッシュホールド値以下に下がった時の以降がスムーズになります。これは特にピークが品番に起こる素材に便利ですが、リリースが長すぎると大きなシグナルを含むオーディオセクションのコンプレッションが、低いシグナルのオーディオセクションまで拡張されてしまうことがあります。

注: 一般的に速いリリースタイムは、特定の種類のパーカッションか、ディケイの速いその他の楽器に対して有効です。その他のソースに速いリリースタイムを使用すると適切な結果が得られない場合があります。

L/Cメーター

このメーターは、リミッター/コンプレッサー・モジュールのゲイン・アッテネート量を表示します。

EQ モジュール

AMS-Neve 88RS のマニュアルから引用:

“AMS-Neve EQ の独特なサウンドは、長年の研究と豊富なスタジオでの経験の結果です。”

Neve 88RS のフォルマント・スペクトルイコライザーは、高周波数(HF)、高中周波数(HMF)、低中周波数(LMF)、低周波数(LF)の4種類の周波数帯に分割されます。(次ページの図 98 参照)高周波数と低周波数は、シェルビング、またはハイ Q モードにすることもできます。2つの中周波数帯域は、完全なパラメトリックです。EQ モジュール全体をオフにすることもできます。

高周波数(HF)、または低周波数(LF)帯域がシェルフモードの場合、バンドゲインは、バンド周波数に影響を与えます。ゲインが増加するとシェルフの周波数は、ノブの数値に近い近く一致します。しかしゲインが減少するとローシェルビング周波数は高くなり、ハイシェルビング周波数は低くなります。

Neve 88RS EQ では、Q の値とレンジは、バンドのゲイン設定に依存します。ゲインを 0 以外の数値に設定すると Q は、そのバンド用にリアルタイムに計算されます。バンドゲインが 0 に設定されている場合、Q は常に 0 を表示します。

プリダイナミクス (P-DYN)

デフォルトでは、オーディオシグナルは、ダイナミクス・モジュールから EQ モジュールへルーティングされます(EQ はポストダイナミクス)。EQ は、P-DYN スイッチを使用してプリ・ダイナミクスにルーティングすることも可能です。スイッチを有効(赤いインジケーターが点灯)にすると、EQ モジュールは、ダイナミクス・モジュールより前になります。(図 92)

注: プリダイナミクスは EQ モジュールと少なくとも 1 つのダイナミクス・モジュールがオンになっている必要があります。

コントロールの位置

Neve 88RS でプリダイナミクス・スイッチは、ハイフリーケンシー・コントロールの近くの EQ モジュール内に配置されています。Neve 88RS Legacy では、グローバルコントロール・セクション内に配置されています。

88RS EQ バンドの レイアウト

EQ モジュール内の各帯域のコントロールのグルーピングは以下に表示しています。

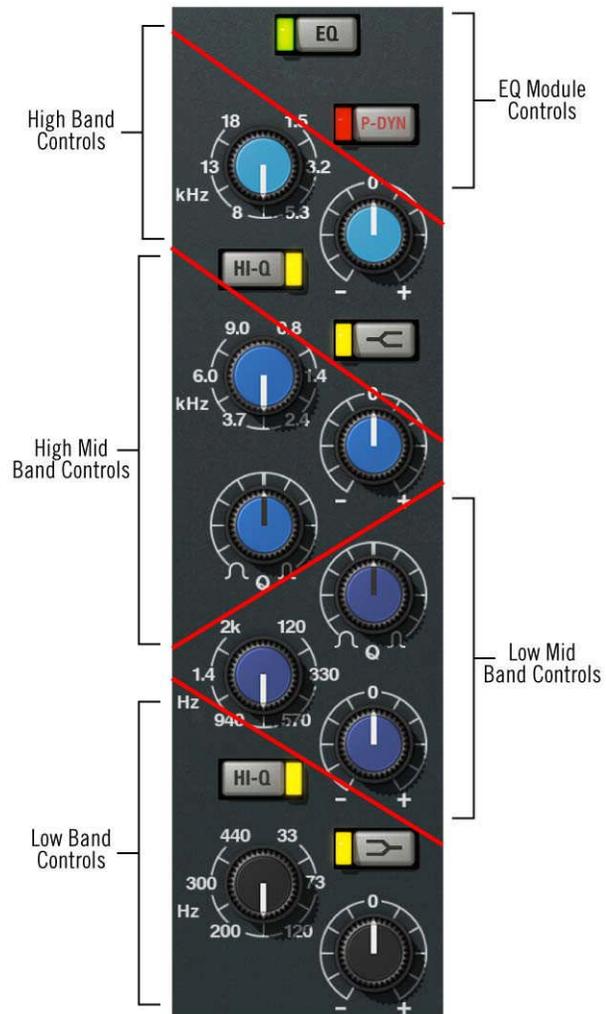


図 98. Neve 88RS EQ コントロールのレイアウト

EQコントロール

このセクションのコントロールの説明については、下図を参照してください。

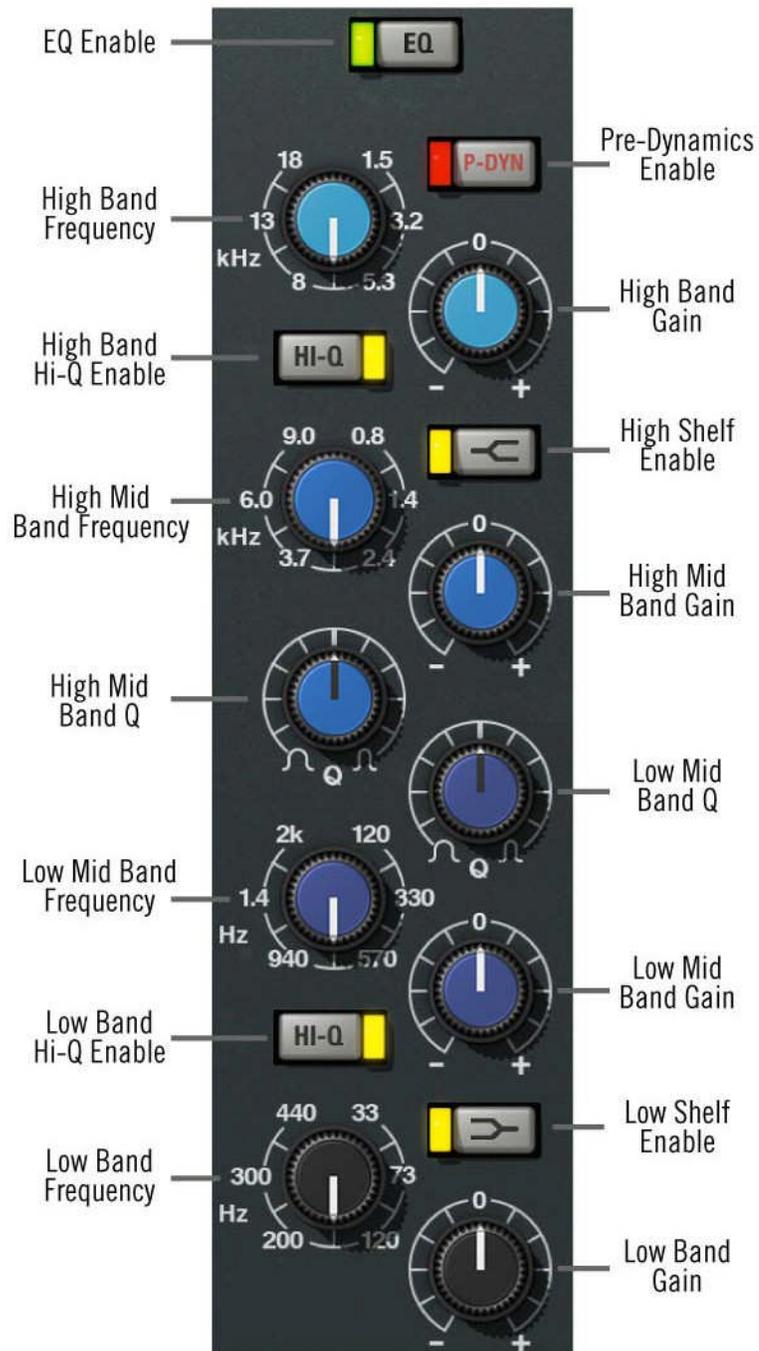


図 99. Neve 88RS EQ のコントロール

EQ 依-ブル(EQ)

このボタンは、イコライザー・モジュールをオンにします。モジュールがオンの時は、緑色のインジケーターが点灯します。

このボタンは、オリジナルのシグナルとイコライザーの設定を比較するため、またはモジュールをバイパスするために使用することができます。このモジュールは、無効時には UAD DSP の負荷が軽減されます。(UAD-2 DSP ロードロック時以外)

高域

HF Freq

バンドゲイン・セッティングによってブースト、またはアッテネートする HF 帯域の中心周波数を決定します。選択可能な範囲は、1.5 kHz ~ 18 kHz です。

HF ゲイン

HF 帯域の周波数設定がブースト、またはアッテネートされる量を決定します。使用可能な範囲は ± 20 dB です。

ヒント: コントロールを 0 dB に戻すために、ラベル“0”をクリックしてください。

HF Hi-Q 依-ブル

HF バンドのフィルタースロープを変更することができます。Hi-Q がオフの場合、Q は、0.7 です。Hi-Q がオンの場合、Q は、2 です。高い Q 値になるほどピークのスロープは急になります。

Hi-Q がオンになると、ボタンは灰色になり、黄色のインジケーターが点灯します。デフォルトではオフになっています。

注: Hi-Q は、バンドがシェルフモードの場合、影響を与えません。

HFシェルフ依-ブル

HF バンドは、シェルフオン・ボタンをクリックしてベル・モードからシェルピング・モードに切り替えることができます。シェルフ・モードがオンになっているとボタンが灰色になり黄色のインジケーターが点灯します。デフォルトではシェルフモードでは、オフになっています。

高中域

HMF Freq

バンドゲイン・セッティングによってブースト、またはアッテネートする HMF 帯域の中心周波数を決定します。選択可能な範囲は、800 Hz ~ 9 kHz です。

HMF ゲイン

HMF 帯域の周波数設定がブースト、またはアッテネートされる量を決定します。使用可能な範囲は ± 20 dB です。

ヒント: コントロールを 0 dB に戻すために、ラベル“0”をクリックしてください。

HMF Q

Q (帯域幅)コントロールは、HMF バンドの中心周波数の周囲の周波数の比率は、バンドゲイン・コントロールの影響を受けます。コントロールを右に回すほどフィルターのスロープが急に(狭く)なります。使用可能な範囲は、0.4 ~ 10 です。

低中域

LMF Freq

LMF ゲイン設定によってブースト、またはアッテネートする LMF 帯域の中心周波数を決定します。使用可能な範囲は、120 Hz ~ 2kHz です。

LMF Gain

LMF 帯域の周波数設定がブースト、またはアッテネートされる量を決定します。使用可能な範囲は ±20 dB です。

ヒント: コントロールを 0 dB に戻すために、ラベル“0”をクリックしてください。

LMF Q

Q (帯域幅)コントロールは、HMF バンドの中心周波数の周囲の周波数の比率は、バンドゲイン・コントロールの影響を受けます。コントロールを右に回すほどフィルターのスロープが急に(狭く)なります。使用可能な範囲は、0.4 ~ 10 です。

低域

LF Freq

LF ゲイン設定によってブースト、またはアッテネートする LMF 帯域の中心周波数を決定します。使用可能な範囲は、33 Hz ~ 440 kHz です。

LF ゲイン

LF 帯域の周波数設定がブースト、またはアッテネートされる量を決定します。使用可能な範囲は ±20 dB です。

ヒント: コントロールを 0 dB に戻すために、ラベル“0”をクリックしてください。

LF シェルフ・ボタン

LF バンドは、シェルフオン・ボタンをクリックしてベル・モードからシェルビング・モードに切り替えることができます。シェルフ・モードがオンになっているとボタンが灰色になり黄色のインジケータが点灯します。デフォルトではシェルフモードでは、オフになっています。

LF Hi-Q イネーブル

LF バンドのフィルタースロープを変更することができます。Hi-Q がオフの場合、Q は、0.7 です。Hi-Q がオンの場合、Q は、2 です。高い Q 値になるほどピークのスロープは急になります。

Hi-Q がオンになると、ボタンは灰色になり、黄色のインジケーターが点灯します。デフォルトではオフになっています。

注: Hi-Q は、バンドがシェルフモードの場合、影響を与えません。

グローバルコントロール

Meters

G/E

ゲート/エキスパンダー・モジュールで起こっているダイナミクス・プロセッシングの量を表示します。

L/C

リミッター/コンプレッサー・モジュールで起こっているダイナミクス・プロセッシングの量を表示します。

VU

プラグインのアウトプット・ステージのシグナル・レベルを表示します。

注: *Neve 88RS Legacy* は、VU メーターを備えていません。



レベル・フェーダー

レベルをブースト、またはチャンネルストリップの最終アウトプットのアンプステージのレベルを減衰させます。オリジナルの *Neve88RS* コンソール・フェーダーのサーキットは、このコントロールのためにモデリングしました。オリジナルのハードウェアのように、より高いレベルは、ハードウェアのようにアウトプットをクリッピングさせることができます。

使用可能な範囲は $-\infty$ dB (オフ) ~ +10 dB です。ユニティゲインは、0 の位置にあります。

ヒント: コントロールを 0 dB に戻すために、ラベル“0”をクリックしてください。

アウトプット

アウトプット・シグナルの音響特性に影響を与えることなく、プラグインのアウトプットのシグナルレベルを調整します。使用可能な範囲は ± 20 dB です。

オリジナルのハードウェアには存在しないこのコントロールは、全体的なシグナルのカラーを最大にする能力を容易にします。例えば、ゲインとレベルは、より多くのディストーションを得るために増加させる一方で、レベルを正常に保つた

めにアウトプットを下げるすることができます。

Power

パワースイッチは、プラグインのオン/オフを決定します。オレはオリジナルのシグナルとプロセッシング後ののシグナルを比較することと、UAD DSP の負荷を低減するためにプラグインをバイパスする場合に使用することができます。(UAD-2 DSP ロードロックが無効時)

切り替えるにはスイッチをクリックして切替えます。プラグインがアクティブな場合は、スイッチが赤く点灯します。

注: 素早く比較するためにはスイッチをクリックしたままスライダーの用にドラッグしてください。



Neve® 1073、1081、31102、88RS、33609 や AMS-NEVE の商標のすべての視覚と聴覚による参照は AMS-Neve から書面による許諾を得ています。